

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	○運営に関する職員意見の反映 外部評価は、職員一人ひとりが自己評価したものを、管理者が集約する方法もあるが今までも運営者と管理者、一部の職員とで話し合いを行い、管理者が取りまとめをしていた。職員の意見をより多く反映できる対策を今後は取っていきたいと考える。	事業所のあり方を、定期的に外部評価項目に沿って話し合う場を持つ。	①今回の結果を職員ミーティングにて取り上げ、意見交換を行う。 ②来年度、何を目標に掲げて介護していくかを職員ミーティングの場で話し合う。 ③定期のミーティングで職員からの意見を現場にどう反映させるか話し合って実施する。	1 カ月 2 カ月 毎月評価
			外部評価資料(自己評価)を、職員全員の意見を持って作成する。	①次回の外部評価では職員全員が一人ひとり自己評価を行い、支援方法を見つめ直す機会にする。	2 4 カ月
2	13	○災害対策 災害時の協力体制として近所に2名の協力依頼者がいるが、さらに地域の協力体制を検討し、体制の充実を図る。	地域の防災班を知り、協力依頼を行うとともに、職員も防災班に入り、地域に対して協力体制を整える。近所に声をかけ、協力者の依頼を行い、より充実した体制を整える。	①地区の防災班について情報を得る。(運営推進会議においても民生委員等に声をかける。) ②職員自らも地区の防災班に入り、地域の中で協力体制が図れるように活動する。 ③防災訓練時には引き続き近所の協力を依頼し、訓練を実施する。	3 カ月 6 カ月
					1 2 カ月
3	17	○入浴を楽しむことができる支援 入浴援助については、異性介護の配慮はなく実施していた。トラブルはなかったが、今後団塊の世代の入居を考慮して検討する。	プライバシーを考慮して介護を行う行為に関して、同性介護を基本とする。場合により異性介護となった場合も、利用者の気持ちを十分に察してケアを行う。	①利用者一人ひとりの希望に沿って入浴が実施できるように、再度要望を把握する。 ②できる限り同性介護が可能となるように業務分担を行う。 ③職員ミーティングにてプライバシーについて話し合う機会をもつ。	2 カ月 毎月確認

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。  
評価結果の通知を受けた日から概ね2週間から30日以内に作成し、市町と評価機関に提出して下さい。(提出必須)